

高砂市

高砂は古くから陸路と水路が整備され、交通の要衝として栄えてきました。江戸時代（1603 ～ 1867 年）には、塩や石などの商品が生産される小さな集落が数多く設立されました。また、港や農場、加古川の物流拠点なども整備されました。この時代、この地は姫路藩の統治下にありました。

高砂市は、日本の伝統芸能でユネスコ無形文化遺産に登録されている能の第一人者とみなされている世阿弥元清（1363～1443）が書いた能「高砂」の舞台であるとされています。劇中に「高砂」という歌があり、この歌は、夫婦の長寿と幸福、そしてその和合を祝うために、日本の伝統的な結婚式でよく歌われます。高砂神社の境内には、劇中で「相生の松」として登場する、一つの根元から生える二本の松があります。一对の松の木の精霊である尉と姥という老夫婦は、劇中で夫婦の幸福と長寿を象徴しており、相生の松の横にある尉姥神社にも祀られています。

尉と姥の伝説や松の存在が広まり、高砂は夫婦和合に関する伝説が数多く残ることから「結びの町」として知られるようになりました。